

石巻震災土蔵メモリアル基金



**大津波を耐えた土蔵を
震災メモリアルとして保存したい**

石巻若宮丸漂流民の会理事本間英一さんの自宅は、今回の大津波で壊滅的打撃を受けた石巻市門脇町にありました。ご本人、ご家族は無事でしたが、自宅は全壊流失しました。しかしこの時自宅の庭にあった明治30年(1897)に建築された土蔵は、この津波にも、さらには流失家屋の激突にも耐えて、残ったのです。瓦礫の荒野の中、けなげに立ち残ったこの土蔵の存在は、いま私たちに大事なことを語りかけているように思えます。

この土蔵が建てられたのは、明治29年の三陸沖大地震と津波があった翌年です。2万人以上の犠牲者を出したこの未曾有の天災から得た知恵が、この土蔵をつくる時に生かされているはずです。何故この土蔵がこの津波を耐えることができたのか、それこそ私たちが後代に語り伝えていかななくてはならないものでないでしょうか。ここには、「官-企業」の想定外の論理を超える「民」の知恵があったはずです。

もうひとつ、瓦礫の荒野のなかでけなげに、でもしっかりと建ち残ったこの土蔵のたくましさを、被災地石巻の復興の礎にできないかということがあります。いま現在も家や家族を失くした人たちが避難所で苦しい生活を強いられています。いま一番助けを必要としている人たちに手を差し伸べる、それが大事なことはもちろん理解しています。生活の援助をするほかに、心の中に希望のともしびを持ってもらうことも大事なのではないのでしょうか。瓦礫の荒野にまた草花が咲き、人々の憩いの場にしてもらうために、この土蔵をひとつのシンボルとして、大事に保存したいのです。

私たち石巻若宮丸漂流民の会と石巻千石船の会が中心となり、この土蔵を保存するための基金集めをすることになりました。破損した部分の修理、さらには補強などにおよそ200万円の経費がかかります。まずはこのお金を皆さんからの寄付によって集めたいと思っています。

なにとぞご趣旨にご賛同のうえ、ご寄付賜りますようによろしくお願いいたします。特に一口いくらということではありません。郵便振替用紙が同封してあります、いくらでもいいので、なにとぞよろしくご寄付のほどよろしくお願いいたします。

石巻若宮丸漂流民の会 事務局長 大島 幹雄

募金の名称 **石巻震災土蔵メモリアル基金**
募金の主体 石巻若宮丸漂流民の会・石巻千石船の会
振込先 郵便振替口座
加入者名 石巻震災土蔵メモリアル基金
口座番号 02200-5-110607
お問合せ 本間 英一
電話 090-9536-2354
メール honnma44@vesta.ocn.ne.jp